

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
1	医用情報処理学	3	1	<p>コンピュータの普及によって、多様なデータベースを療法士自身で作成できるようになり、日々の療法士業務で活用されている。本講義ではデータベースの基本的な構造とその作成について講義する。また、データベースの作成・編集、およびデータのグラフ描画に関わる様々なMS-Excelの機能に習熟することを目的とした演習を行う。データをグラフ化するなかで、データの特性に対応したグラフを選択する論理過程や、情報を適切に表現する技術を習得する。</p> <p>本科目は、ICT（タブレット端末およびe-learningプラットフォーム）を活用し、情報リテラシー教育の一部を担う。</p> <p>実務経験を有する理学療法士が講義・演習を一部担当する。本年度は対面授業を行う。</p>
2	コンピュータプログラミング	3	1	<p>工学、理学、医学をはじめとした幅広い専門的データ処理を行うためのプログラミング言語である「MATLAB」を活用して、変数、配列インデックス付け、算術演算、ループと条件付きステートメントなど、C言語やPythonなど様々なプログラミング言語と共通した基本的構造について講義する。また、実践的なデータサイエンス教育となるよう、企業の各種活動支援ロボット（機器）及びその基礎データを用いて実社会から得られた人間の行動データや生体信号についての比較を統計解析などを行い、また、これらの専門的解析を行うためのプログラミング技法（アップロード、信号処理、データ可視化など）を習得することで企業への問題解決策を提案できる能力を習得する。</p> <p>本年度は対面授業を行う。なお、本大学病院リハビリテーション部において実務経験を有する理学療法士が授業を担当する。</p> <p>本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）における教育プログラムの一部を担う。</p>
3	言語機能学	3	1	<p>コミュニケーションをとること、食事をすることは、人間が生きて活動するために欠かせない重要な機能である。本講義では、1.人だけが自由にことばを操るようになった背景、2.ことばを生み出す解剖学的・生理学的メカニズム、3.ことばを含めたコミュニケーションの機能、および摂食・嚥下のメカニズム、その発達、獲得、老化（減退）について学習する。なお、本大学病院リハビリテーション部において言語聴覚士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>対面授業を基本とする。</p>
4	言語療法学	3	1	<p>言語聴覚障害の特徴とその発生機序、症状の概要を学習する。</p> <p>コミュニケーション障害と摂食・嚥下障害を疑似体験することにより、目に見えない障害である言語聴覚障害と摂食嚥下障害に関して、障害によって生じる一次的問題と付随して生じる二次的問題について理解する。また、介助者の疑似体験を通し、介助者が抱える精神的、社会的問題についても同時に理解を深め、リハビリテーションの目的とあり方について深く考える。なお、本大学病院リハビリテーション部において言語聴覚士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>対面授業を基本とする。</p>
5	言語病理学	3	1	<p>理学療法、作業療法の対象となる方々の多くは、種々のコミュニケーション障害を合併している。患者を全人的に理解しリハビリテーションを行っていくためには、これら障害を理解し適切な対応をとることは必須である。本講義では、コミュニケーション障害を含む高次脳機能障害に関しての文献的研究とグループ討議により様々な側面から分析し、深く考察する。なお、本大学病院リハビリテーション部において言語聴覚士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>対面授業を基本とする。</p>

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
6	地域リハビリテーション学	3	1	<p>現代の社会背景とともに地域ケア・地域リハビリテーションに関わる諸制度を知り、地域における虚弱高齢者や障害児・者に関する各制度上の理学療法士の役割および業務内容を理解する。障害児・者が在宅生活を維持するための環境整備の考え方や対処方法を理解する。</p> <p>授業を行うのは、本大学病院リハビリテーション部など複数の病院施設や居宅介護支援事業所や地域包括支援センターにおいて理学療法士や地域理学療法の実務経験を有する教員である。講義中の重要な単元において、理解度を確保するための確認問題と解説を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
7	職業関連活動学	3	1	<p>地域における理学療法士・作業療法士の役割も増え、障害を持ちながら就労を目指す人たちへの役割も求められている。</p> <p>就労支援に関する理学療法士・作業療法士の役割を修得するため、職業リハビリテーションの概要、障害者雇用の現状、就労支援施設における現状、就労支援のあり方、医療的援助におけるリハビリテーションの重要性や実施方法について講義する。また、国家試験に出題される内容についても解説、講義する。</p> <p>なお、就労支援の実務経験を有する教員が授業を行う。本年度は対面授業を行う。</p>
8	理学療法研究概論	3	1	<p>本科目では理学療法における研究の意義、具体的方法論、基本的統計概念とその分析法について講義する。さらに論文抄読、データ処理、研究計画書作成を体験する。本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）における教育プログラムの一部を担う。</p> <p>毎回の講義において、e-learning（Moodle）を用いて適宜理解度を確保するための確認問題を実施し、理解度に応じた解説を行う。なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
9	臨床運動学	3	1	<p>理学療法では運動学に基づいて運動障害を評価し、障害構造を正しく解釈し、理学療法を実践する。従って、理学療法士は、人体構造はもちろんのこと、臨床における異常所見を観察し、運動学的特徴を理解する能力が求められる。本科目では、様々な運動、姿勢、動作のメカニズムや、その障害の特徴を解説する。</p> <p>毎回の講義において、e-learning（Moodle）を用いて適宜理解度を確保するための課題を実施し、理解度に応じた解説を行う。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
10	病態運動学	3	1	<p>理学療法の対象となる中枢神経疾患や骨・関節疾患は、姿勢や運動障害との関連において様々な病態を呈する。病態運動学は運動学を基礎として、臨床的な視点から、運動障害と能力低下に焦点を当てながら疾患別に病態の捉えかたを講義する。さらに、理学療法における運動障害の評価や治療、治療効果判定に応用する方法についても講義する。</p> <p>毎回の講義において、e-learning（Moodle）を用いて適宜理解度を確保するための課題を実施し、理解度に応じた解説を行う。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
11	表面解剖学	3	1	機能評価の手段として視診、触診の位置付けについて学ぶ。解剖学、運動学などで学んだ身体の構造と機能を、皮膚の上から触れうる骨、筋、関節、靭帯、神経、血管などの視診と触診（実技）を通して立体的に学習する。講義中にMoodleを活用し、理解度確認を行う。本科目は、大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が、その経験を活かし、実践的な触診技術について授業を行う。
12	理学療法教育・管理学概論	3	1	理学療法士は国家資格であるため、専門的な知識・技術を有するだけでなく、国が定めた制度の中で適切にその力を発揮する必要がある。また、所属する組織や地域の中で他者と連携しながら業務を遂行する力が求められる。関係する諸制度を理解し、理学療法士として業務を適切に管理しながら遂行するために必要な内容について講義する。本科目では、理解を促すために、適宜デジタル視聴覚教材を用いて講義を進める。なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。 本年度は対面授業を行う。
13	運動療法学実習	3	1	実習を通して運動療法学の理解を深め、臨床で必要とされる技術の習得ができるようにする。内容は、筋緊張異常・姿勢異常・感覚異常・筋力低下・動作能力低下・バランス低下に対する運動療法として、関節可動域運動、筋力増強、治療体操各種、ストレッチング、促通手技等を行う。また、臨床上、重要となる態度面の習得（患者に対する話し方、接し方、触れ方）などを学習する。さらに、ボディメカニクスに応じた理学療法士自身の身体の使い方などを習得する。一部、学生同士のディスカッションやプレゼンテーションを含む。 講義資料は講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信し、レポートはMoodleを用いて提出する。 本大学病院リハビリテーション部での理学療法士の実務経験を活かし、理学療法士に必要な能力を身につけるため、実践的な運動療法について講義・実習を行う。本年度は対面授業を行う。
14	理学療法治療学2－中枢2	3	1	理学療法士には神経・筋疾患の病態と障害像を理解した上で適切な理学療法を実施できることが求められる。本科目では以下の疾患について病態、障害像、理学療法評価、治療の進め方、生活指導の留意点などの知識取得を目標に講義する。 講義で扱う疾患：パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、筋ジストロフィー、筋炎、ポリオ、認知症 本学大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識を身につけるために神経・筋疾患の理学療法について授業を行う。
15	理学療法治療学6－スポーツ	3	1	本科目では、スポーツ損傷に対する理学療法の総論や、各スポーツ損傷の発生要因、理学療法評価や治療内容について講義する。また、損傷予防や、損傷の急性期、とくに急性痛に行うべき理学療法についても講義する。加えて、タブレット端末等を用いた双方向授業を行うこともある。 なお、本大学病院リハビリテーション部での理学療法士の実務経験を活かし、スポーツ損傷に関する理学療法について講義を行う。

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
16	理学療法治療学 7－呼吸	3	1	<p>代表的な呼吸器疾患とその病態について学習する。</p> <p>呼吸リハビリテーションに必要な解剖、生理、運動学を理解し、評価・検査の方法を学習する。</p> <p>呼吸器疾患に対する運動療法とリスクを理解する。講義中の重要な単元において、理解度を確保するための確認問題と解説を行う。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士として実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
17	客観的臨床能力演習 3	3	1	<p>学生同士の小グループ（模擬患者役、療法士役、実施内容確認役）に分かれ、講義内容に記された項目を通して臨床上必要な能力低下に対する介入および動作分析について学習し、各自に対し試験（客観的臨床能力試験：OSCE）を実施する。</p> <p>なお、病院において、理学療法士・作業療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p>
18	地域理学療法学	3	1	<p>医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、理学療法士は医療機関以外に実生活の場で対象者支援を行うために必要な基本的知識を修得する。理学療法の領域の広がりを見据えて、介護予防、健康増進、スポーツ活動支援、終末期ケア、災害支援・国際支援、特別支援教育など多くの活動についても理解する。また、e-learning（Moodle）を用いて適宜理解度を確保するための確認課題を行う。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において、理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
19	地域リハビリテーション学実習	4	1	<p>臨地実習での経験を通して、臨床実習指導者の指導・監督のもと、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関する関連専門職の役割を理解する。なお、一部は本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p>
20	理学療法学特論	4	1	<p>理学療法士の職域全体における疾患の多彩な障害像を把握し、現状の理学療法で行われている評価法、治療法について講義する。臨床思考過程における、評価結果からのICFを用いた生活および個人の全体像の把握を行い、問題点の抽出をする。さらに理学療法介入へ思考を進めるための講義をする。講義対象範囲は国家試験問題の内容に沿って実施し、国家試験に必要な知識の定着を目指す。</p> <p>ICT利活用による自主学习教材を提供する。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部にて理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p>
21	臨床研究	4	2	<p>担当教員の指導下、班別の研究活動を行う。具体的には各学生、グループがテーマを決め、学生自ら実験の計画、データ収集、分析ならびに発表を行う。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士・作業療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p>